



とびっくす

No.123

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

令和 6 年の大型クラゲの出現状況について

海の中をゆらゆらと漂う半透明の生き物、クラゲ。多くの方が思い浮かべるクラゲの大きさは、10 数 cm 程度のものではないでしょうか。しかし、実は 1m 以上もの大きさに育つ巨大なクラゲも存在するので。令和 6 年には、この大型クラゲが約 15 年ぶりに大量出現したので報告します。

大型クラゲとは

大型クラゲのうち、日本海沿岸で主に問題となる種はエチゼンクラゲであり、大きなもので直径 2m、重量 200kg にも達する世界最大級のクラゲです。このクラゲは黄海等で生まれた後、対馬暖流に乗って日本海に流入しますが、時に大量出現して漁獲量の減少や漁獲物の品質低下、漁具の破損など、様々な漁業被害を引き起こします。特に平成 14 年から 21 年にかけては毎年のように大量出現し、各地で甚大な漁業被害を引き起こしていましたが、その後、平成 22 年から令和 5 年までは、時折まとまった出現が見られましたが、以前ほどの被害は見られませんでした。

令和 6 年の大型クラゲ出現状況について

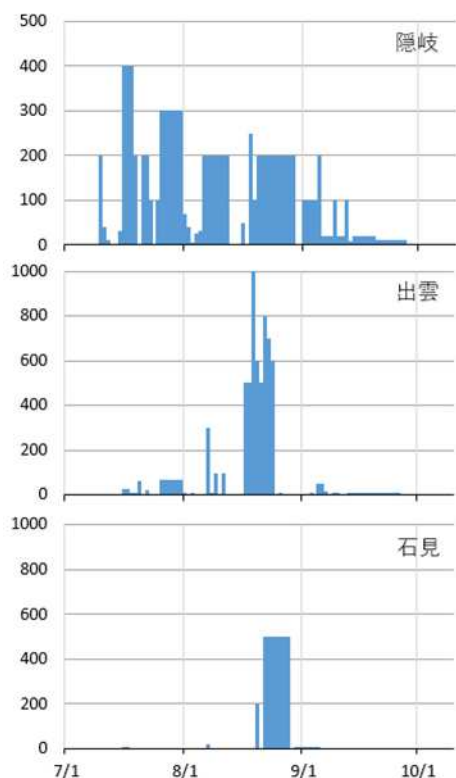


図 1. 定置網への大型クラゲ入網数

* 各海区の一日一網あたり最大入網個体数

令和 6 年 6 月 24 日、対馬の定置網に 1 網あたり最大 2,000 個体もの大型クラゲが入網したとの報告があり、関係者を驚かせました。大型クラゲの大量入網の報告は、平成 21 年以来であり、しかも 6 月下旬と今までにない早い時期の出現だったからです。当センターでは、7 月 4 日に関係各所に警戒を呼びかけたところ、7 月 10 日に隠岐地区の定置網で県内初の大型クラゲの入網が確認され、その後、県内各地での入網、漁業被害の報告がありました。県内各漁業の出現状況と島根県が実施した調査結果を以下に示します。

【定置網】隠岐地区では、7 月上旬から 2 か月にわたって 100～400 個体/網程度の入網が断続的に続きました(図 1)。一方、出雲、石見地区では、最大 1,000 個体/網の入網も見られましたが、出現ピークは 1 週間程度で、隠岐地区とは対照的に短期集中的な出現となりました。

【まき網】まき網では、7 月 18 日に最初の入網が確認されました。7 月下旬には一日あたり数十トン、8 月には一日数十トン程度の入網が続きましたが、9 月に入ると終息に向かいました。

【沖合底びき網】沖合底びき網では、禁漁期明けの 8 月中旬から数百個体/網程度の入網が確認され、その後も 9 月

中旬まで大量入網が続きました。また、海域によってクラゲの入網数には偏りがあり、対馬東方で多く、山口県沖では少ないという傾向がありました。クラゲが多い海域を避けるために、操業したい場所で漁が行えない事態も報告されています。その後、クラゲの出現は9月下旬から10月にかけて終息していききました。

【小型底びき網】小型底びき網では、9月の禁漁期明けから数十個体/網程度の入網が確認されましたが、同月下旬には終息に向かいました。沖合底びき網と同様に、海域によってクラゲの分布に偏りがあり、沖合に行くほど入網数が多い傾向がありました。

【大型クラゲ調査】試験船「島根丸」による目視調査を7月下旬に行い、沖合の2定点で計6個体のクラゲを確認しました。同時期には鳥取県沖合でも確認されており、目視調査でこのように広範囲で確認されるのは平成21年以来のことでした。一方、8月中旬に行ったネットによる調査では、1個体と断片のみの採取に留まりました。また取締船「せいふう」による目視調査では、7月～9月にかけて計16個体のクラゲを確認しました。

令和6年の出現状況の特徴と今後について

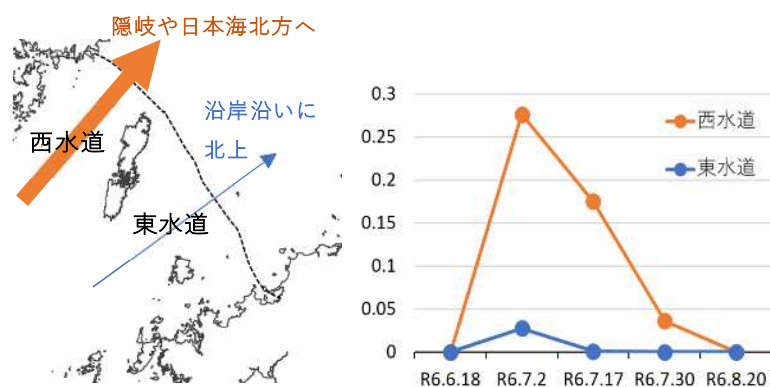


図2. 水産研究・教育機構による対馬海峡における目視調査結果

* 図の破線上で確認された100m²あたり大型クラゲ個体数を示す

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/kansoku/ferry2024.html のデータより作図

【令和6年の特徴】本県における大型クラゲの出現は7月上旬から始まり、概ね10月には終息し、過去の大量出現時に比べ、終息が早いのが特徴でした（史上最大の出現量であった平成21年の出現ピークは10月以降で、12月まで出現が続きました）。また、底びき網では沿岸よりも沖合で入網数が多かったのも特徴です。

日本海に流入する対馬暖流のうち、対馬海峡の東水道を通った流れは本州沿岸寄りに北上しますが、西水道を通った流れは隠岐や日本海北方へ流れていきます。水産研究・教育機構

が実施した対馬海峡における目視調査（図2）から、大型クラゲの大部分は西水道を通る流れに乗って日本海に流入したことが分かっており、沖合で多くクラゲが出現した原因であると考えられます。

【今後について】大型クラゲの発生海域は主に外国の領海内であるため、大量出現予測は残念ながら難しい状況です。また、大量出現する時は海底で何年も蓄積された「種」のようなものから一斉に発生すると考えられているため、魚類等と違って親の量から次世代のクラゲの量を推定できません。

しかし、日本海に流入する大型クラゲは対馬付近を通過するため、対馬の定置網への入網状況や対馬海峡での目視調査によって、島根県沿岸に来遊するまでに出現状況を知ることができます。また、大型クラゲの発生が確認された時には、漁業関係者への迅速な情報提供を行い、漁業現場における早期からの対策を取ることが出来るよう努めていきます。

なお、令和7年は、令和6年より早い6月17日に長崎県の定置網に今年初のクラゲ入網が確認されました。令和6年初の入網に比べて数は少ないですが、今後の動きに注意が必要です。

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL: (0855)22-1720 FAX: (0855)23-2079

ホームページ: <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

